

## 第3章 スポーツ推進のための具体的施策

### 1 生涯にわたってスポーツに親しむ子どもたちの育成 【裾野を広げる】

乳幼児期からの地域特有の自然環境を活用した「外遊び」を中心とし、運動遊びから得る「楽しさ」を通じて幼児期に育むべき志向・能力の向上を目指します。また、学齢期までの継続的なスポーツの機会を通じて、子どもたちがスポーツの意義・価値を実感でき、生涯スポーツへのきっかけとなるように学校体育やスポーツ活動への支援を行うことでスポーツ機会の充実と体力向上を図ります。

#### <現状と課題>

##### (1) 学校体育

①本市の児童・生徒の体力レベルは全国平均、全県平均と比べて共に低く、市教委による体力向上委員会等の取組みを通して、継続的な専門的支援が望まれます。特に運動嫌いの子どもたちが体を動かすことに親しむための取組みが必要です。

##### (2) スポーツ教室、スポーツ少年団

①「子どもたちの外遊びの推進」が、スポーツ振興のために最も力を入れるべきことと求められています（東御市の運動・スポーツに関するアンケート調査結果より。資料11参照）。  
②スポーツ少年団においては、少子化に伴い市内各単位団が縮小化しています。子どもたちの多様なニーズに対応するため、スポーツ関係団体と連携して、学校外で興味のあるスポーツに取組むことができる機会の充実を図ることが求められます。

##### (3) 運動部活動

①少子化による部員不足、教員の長時間労働、一部の行き過ぎた指導、保護者の過大な介入等、運動部活動に関わる諸問題が散見されます。  
②市内中学校間の部活数等の隔たりを解消し、中学生期における運動部活動が充実した有意義なものとなるよう、市、教育委員会、学校、地域、企業等の連携のもとで将来を見据えた具体的な体制整備を進めることが急務です。

### 1-1 運動遊びによる就学までのスポーツの土台づくり

#### ① 発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びの推奨

乳幼児期の運動と発達は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎となります。母子保健や子育て支援事業等と連携を図りながら、発達を促す基礎となる親子ふれあい遊びを推奨します。

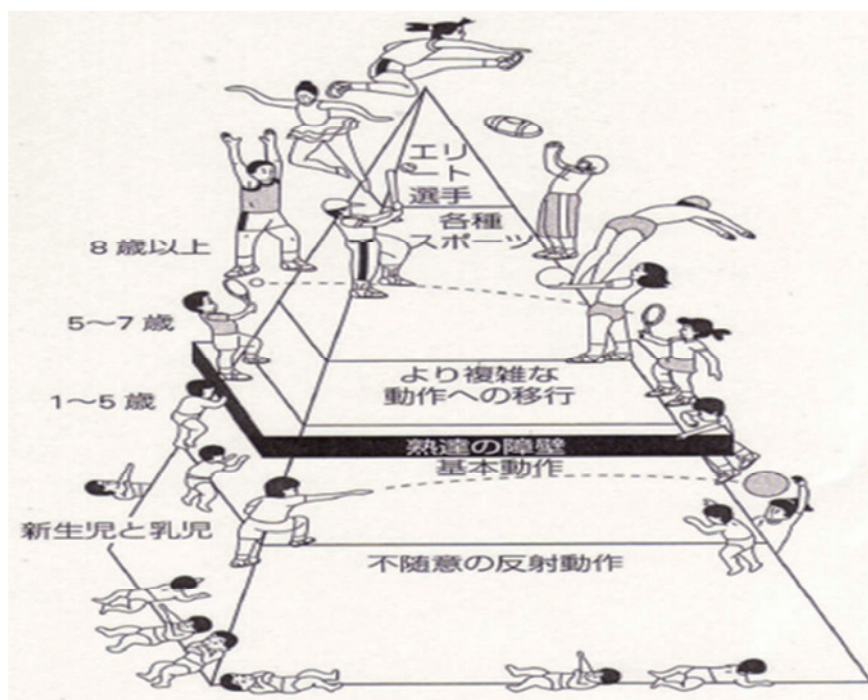
#### ② 幼児期に子どもたちが主体的に遊べる機会の充実

子どもの遊びは、様々な運動体験に加えて自己肯定感を育み、心身の健やかな成長を促します。スポーツにつながる土台として、地域で子どもたちが主体的に遊べる機会を作ります。

#### ③ 運動遊び・自然体験活動等による保育・幼児教育の充実

子どもの生活時間の大部分を占める保育・幼児教育の現場において、園における運動遊びの習慣化や信州型自然保育の取組みの充実を支援します。

図表 スポーツの基礎となる発達段階を示すピラミッド



(出典：子どもに「体力」をとりにどそう (宮下 充正 著))

## 1-2 小学生期のスポーツへの円滑な接続

### ① 学校体育及び教科外・放課後活動充実のための専門的支援

運動の特性や魅力を実感できるとともに、体力・運動能力の向上にも資する授業実践や教科外・放課後活動充実のために、「体力・運動能力、運動習慣等調査」の実施も含め、公益財団法人身体教育医学研究所（以下「しんたい」という。）による研修や教材提供等を通じた専門的支援を継続的に行います。

また、障がいのある児童が参加できる体育授業のあり方、特別支援学級におけるスポーツのあり方等を検討・推進します。

### ② 低学年からの外遊びと、高学年でのスポーツ（少年団等）活動の活性化

多数の子どもたちが児童クラブ、児童館で過ごす放課後の時間帯において、スポーツ関係者が連携を図り、外遊びやスポーツに触れる機会を定着させるための取組みを行います。スポーツ少年団活動の充実に向けては、計画的な指導者育成を図ります。

また、持続可能な活動を目指して、各種団体が連携した「新たな地域スポーツ体制」について検証します。

### ③ 様々なスポーツ種目の体験や、一流選手等との触れ合いができる機会の提供

スポーツの魅力を感じたり、一流選手に憧れを持つチャンスを持てるよう、様々なスポーツ種目の体験機会や、一流選手等と触れ合う機会を提供します。

## 1-3 中学生期のスポーツニーズへの対応

### ① 保幼小での積み上げと連動した保健体育の充実

中学校では、保健体育の授業が専科の教員により行われます。本市における一貫教育を基盤に、保幼小での取組みを活かしたり、積み上げを促す助言を行う等の連携を図ります。

また、障がいのある生徒が参加できる体育授業のあり方、特別支援学級におけるスポーツのあり方等を検討・推進します。

### ② 望ましい運動部活動のための支援体制づくり

スポーツ庁が示す「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」、県が示す「長野県中学期のスポーツ活動指針」、本市教育委員会が策定する「運動部活動の方針」等に則り、体力・技術の向上のみならず、生徒の心身の健康管理、事故防止及び体罰・ハラスメントの根絶を徹底します。

部活動顧問（外部指導者、部活動指導員含む）の資質向上のため、アスリート育成経験や専門知識を持った指導者による研修等への参加機会を確保します。日本スポーツ協会、長野県体育協会、長野県体育センター等が開催する講習会・競技指導等の研修会への参加及び指導者資格の取得を支援します。また、中学校の運動部活動指導の充実と教員及び保護者の負担軽減を図るため、教員及び生徒のニーズを把握した上で部活動運動指導員の任用を検討します。

さらに、スチューデント・ファースト（学習者本位）の精神に基づく活動となることを大前提に、各学校・各運動部活動の実情を把握し、部員減少による少人数チームの活動の場を保障する等、地域の実情にあった運動部活動の環境づくり・体制づくりを推進します。

### ③ 中学でのスポーツ離れを防ぐための「ゆる部活・ゆるスポーツ」等の導入

放課後の生徒の自立的なスポーツ活動に定期的に地域の指導者を派遣する取組みとして、「ゆるスポ活動支援事業」の活用を検討する等、生徒のニーズに合った活動機会の創出を図ります。



# 1-4 子どもたちの育ちを支え、応援するための環境づくり

## ① 子どもたちの心身の発達段階を熟知した指導者の養成

スポーツ指導者は、子どもたちに多大な影響を与える極めて重要な存在です。子どもの心身の発達を十分に理解した指導者を養成するとともに、養成された指導者が力を発揮できるよう、環境整備や支援を行います。

## ② 子どもたちのためのスポーツ活動に対する保護者理解の促進

子どもたちのスポーツ活動の充実のためには、支援する家族・保護者理解の促進が不可欠です。指導者だけでなく保護者も学び、選手・指導者の一番の理解者・応援者となる環境を作ります。

図 指導者と保護者のためのチェックリスト

(公益財団法人日本スポーツ協会 アクティブ・チャイルド・プログラム (ACP) 資料より)



### チェックリスト ①

→子どもの観察評価

スポーツ少年団活動や日常生活において、子どもたちの様子に変化は見られましたか。5段階評価(1. そう思う 2. やや思う 3. 変わらない 4. あまりそう思わない 5. 思わない)で答えてください。

	回答記入欄
①よく外で遊ぶようになった	<input type="checkbox"/>
②遊びの種類が増えた	<input type="checkbox"/>
③遊びに集中して取り組むようになった	<input type="checkbox"/>
④遊んでいる時の表情が変わった	<input type="checkbox"/>
⑤積極的に遊びに参加する子が増えた	<input type="checkbox"/>
⑥工夫して遊ぶようになった	<input type="checkbox"/>
⑦集団で遊ぶようになった	<input type="checkbox"/>
⑧ルールを守って遊ぶことができるようになった	<input type="checkbox"/>
⑨走る、投げるなどの様々な動きがスムーズになった	<input type="checkbox"/>
⑩ケガや転ぶことが減った	<input type="checkbox"/>

「子どもの体力および運動能力の向上に関する研究」 特別健康体育センター (2008-2009) 63改定

### チェックリスト ②

→指導者のための指導のふり返しチェックリスト

下記の質問項目に関して5段階評価(1. そう思う 2. やや思う 3. どちらとも思えない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない)で答えてください。

	回答記入欄
①子どもたちは楽しそうに参加していますか?	<input type="checkbox"/>
②毎回、多様な動きを身に付けるための運動プログラムを導入していますか?	<input type="checkbox"/>
③保護者に指導の趣旨を伝える努力をしていますか?	<input type="checkbox"/>
④子どもたちの動きの成長を観察していますか?	<input type="checkbox"/>
⑤安全な指導に配慮していますか?	<input type="checkbox"/>
⑥子どもたちに対する言葉遣いには配慮していますか?	<input type="checkbox"/>
⑦子どもたちの動きの成長や取り組みに対する態度を認め、ほめることを心がけていますか?	<input type="checkbox"/>
⑧指導者自身が子どもたちとともに楽しんで参加していますか?	<input type="checkbox"/>
⑨上級生の団員たちは、幼児や小学校低学年の子どもたちの参加・指導に協力的ですか?	<input type="checkbox"/>
⑩子どもたちの健全な発達にとって、スポーツ少年団はその役割を担っていますか?	<input type="checkbox"/>

### チェックリスト ③

→保護者のためのチェックリスト

下記の質問項目に関して5段階評価(1. そう思う 2. やや思う 3. どちらとも思えない 4. あまりそう思わない 5. そう思わない)で答えてください。

	回答記入欄
①お父さんは楽しそうに参加していますか?	<input type="checkbox"/>
②毎回、どのような活動をしたのか、お子さんに話かけていますか?	<input type="checkbox"/>
③スポーツ少年団の運営や指導に協力に参加していますか?	<input type="checkbox"/>
④お子さんの動きの成長を観察していますか?	<input type="checkbox"/>
⑤スポーツ少年団で学んだことを、家庭でも練習したり、親子で取り組んでいますか?	<input type="checkbox"/>
⑥スポーツ少年団の指導に対して不満や改善要求があれば、指導者に連絡伝えていますか?	<input type="checkbox"/>
⑦お子さんの動きの成長や取り組みに対する態度を認め、ほめることを心がけていますか?	<input type="checkbox"/>
⑧幼児期は、多様な動きの発達が大切であることを理解し、スポーツ少年団の取り組みを見守っていますか?	<input type="checkbox"/>
⑨お父さんが楽しく、興味をもって参加できるよう、励ましたり、認めたりして支援していますか?	<input type="checkbox"/>
⑩お子さんの健全な発達にとって、スポーツ少年団はその役割を担っていますか?	<input type="checkbox"/>



## 2 誰もがスポーツを享受できる地域環境の充実 【裾野を広げる】

年齢、性別、障がいの有無等を問わず、誰もが自分のライフステージに応じたスポーツ活動に取組めることは、生涯を通して幸福で豊かな生活を営むための基盤です。

よって、働き盛り・子育て世代のスポーツ活動の習慣化、健康長寿社会、ユニバーサル社会の実現のために、スポーツ活動を支える人づくりや、環境整備等によってさまざまなライフステージに応じたスポーツ活動を推進し、生涯にわたる地域スポーツの振興を図ります。

### <現状と課題>

#### (1) 市民のスポーツ実施

①本市の「週1回以上運動・スポーツを実施する人の率」は、60%程度であり、国、県、県内同規模自治体と比較しても高い水準にあります。しかし、30代、40代を中心とした働き盛り・子育て世代においては、実施率が低い傾向にあります。

#### (2) スポーツイベント

①市が開催するスポーツ大会が10大会あり、いずれも参加者は市内在住、在勤に限定しています。現在、参加者が減少していることから、魅力ある大会等の企画・運営が求められます。

②障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツへの参加者は、少数にとどまっています。

#### (3) スポーツ行政

①ライフステージに応じたスポーツ活動の推進に向けては、市役所において乳幼児期から高齢期までの各段階を所管する各部課等が庁内横断的に連携することが不可欠です。

②スポーツ推進委員の後継者の育成が課題となっています。市民のライフスタイルやニーズが多様化する中、自主的・積極的な活動、市民と市との繋ぎ役としての役割が期待されます。

#### (4) スポーツ施設

①市内体育施設の中には建設後40年を経過した施設が複数あります。市の公共施設等総合管理計画との整合を図りながら、長寿命化計画を策定する必要があります。

②体育施設・学校体育施設の予約方法の簡素化、空き状況の見える化等が課題です。施設の利便性を高めるための工夫が求められています。

#### (5) スポーツ組織

①スポーツに対するニーズの多様化に伴い、それらのニーズに柔軟に対応し、スポーツの普及促進を担う若手指導者の育成が課題となっています。

②スポーツ少年団の団員数が減少し、取組みに支障が出ている一方で、市内に同種目の単位団が複数あることから、現状に応じた推進体制の最適化が課題となっています。

③スポーツ関係団体等が定期的に情報共有、意見交換を重ね、今後のスポーツ振興のあり方を検証することが求められています。

## 2-1 スポーツ参加のきっかけとなる機会（イベント）の充実

### ①市民参加型スポーツ大会・教室の開催、チャレンジデーへの継続的取り組み

市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図ります。また、各種競技団体が主体となり既存のスポーツ大会のあり方を検証し、質の充実と参加者の増加に向けて、参加者ニーズを踏まえた魅力的な大会を企画・開催します。

「チャレンジデー」を本市の市民総参加型スポーツイベントと位置付け、毎年度継続実施します。

※「チャレンジデー」とは…日本では、公益財団法人笹川スポーツ財団がコーディネーターを務めて毎年5月の最終水曜日に開催されている住民総参加型のスポーツイベントであり、世界中で実施されています。年齢・性別を問わず、日常的なスポーツ習慣化や住民の健康増進、地域の活性化に向けたきっかけづくりを目的に開催されています。

### ②行政他分野の各事業におけるスポーツの積極的な導入

企画振興部、健康福祉部、教育委員会等と連携を図り、子育て支援事業、健康づくり・介護予防事業、障がい者福祉事業、生涯学習講座等へスポーツを積極的に導入します。

## 2-2 青壮年期のスポーツ活動の促進

### ①働き盛り世代へのスポーツ活動の普及・促進

企業が行う従業員を対象とした健康事業と連携し、スタッフ派遣や用具貸出しを行い、日常的にスポーツに取り組めるよう、スポーツの必要性や効果的な運動を紹介する等、働き盛り世代がスポーツ活動に親しみ楽しめる環境づくりを支援します。

### ②働き盛り世代のスポーツ習慣化への支援

企業、公民館等と連携し、スポーツが苦手な人のきっかけづくりを行い、習慣化を支援します。例えば、ニュースポーツやユニバーサルスポーツの体験会等を開催します。

### ③積極的な情報発信

市報、ホームページ、SNS等を活用するとともに、体育施設を含む公共施設、商店、企業、本市観光情報ステーションにスポーツ情報コーナーを設ける等、情報発信の充実を図ります。

## 2-3 スポーツ施設等（ハード）の整備と活用

### ①スポーツ施設の適正管理

市民が安心してスポーツに取り組むことができるよう、市と指定管理者が連携して「東御市公共施設等総合管理計画」との整合を図ったうえで「スポーツ施設長寿命化計画（仮称）」を策定し、計画的な運営・管理に努めます。また、利便性を高めるため、施設予約の簡素化、施設の使用状況の見える化を検証・推進します。

### ②小中学校の学校体育施設の開放

小中学校の学校体育施設を開放し、市民に身近なスポーツの場を提供するとともに「東御市立小学校長寿命化基本計画」との整合を図り、利用者のニーズに応じた施設の補修等に努めます。

## 2-4 地域スポーツ活動組織・人材等（ソフト）の充実

### ①スポーツ推進委員活動の強化

各種研修会へスポーツ推進委員を派遣し、専門的な知識や技術の習得を支援します。また、スポーツ推進委員が地域スポーツ振興の推進役、行政と市民のつなぎ役として、委員内の組織体制を強化し、独自の企画・運営によるイベントや推進への取組みができるよう支援をします。

### ②体育協会活動充実への支援

特定非営利活動法人東御市体育協会（以下「体育協会」という。）と連携して、市民の主体的なスポーツ活動を促進します。また、体育協会へは、目的を明確にした事業委託と適正な財政的支援を行うことで、加盟団体の普及活動や指導者の育成、競技力の向上等の取組みを促進します。

### ③総合型地域スポーツクラブや人材バンク（仮称）の創設

市民のライフスタイルに応じて多様なスポーツを実現するため、多世代・多種目・多志向に応える「総合型地域スポーツクラブ」の創設を支援します。特に「こどもの外遊び」、「ユニバーサルスポーツ」、「健康づくり」、「働き盛り世代のスポーツ活動の習慣化」を柱とします。

また、市民スポーツの普及・推進においては、様々な種目・レベルに応じた指導者が必要であることから、体育協会、各競技団体、スポーツ関係団体、企業、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ等との連携により多種多様な指導者及びボランティアの募集、掘起しを行い、登録をする「スポーツ指導等人材バンク（仮称）」を創設して、スポーツ団体の育成や競技指導のみならずスポーツ教室、大会・イベントの開催から企画・運営を担っていける新たな地域のスポーツ体制を支える基盤を強化します。

※ 総合型地域スポーツクラブとは…子どもから高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）という特徴を持ち、地域が自主的・主体的に運営するスポーツクラブです。

## 2-5 スポーツを通じたユニバーサルな地域社会づくり

### ①身近で実施できるユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動等の充実

高齢者、障がい者にとってスポーツが日々の楽しみとなり、生活に潤いを与えられる地域を目指します。

体育協会、スポーツ推進委員、しんたい、総合地域スポーツクラブ等と連携し、高齢者向けプログラムを提供する等、高齢期におけるスポーツを積極的に推進します。また、身近で活動を支援するボランティアを育成します。

また、障がい者のスポーツ活動への参加に向けて、適切な配慮と指導が実施できるよう「みんなの健康×スポーツ実行委員会」、「スポーツ推進委員」を中心として、幅広い層の方々が共に活動する機会の提供に努め、そのための研修機会の充実に取組みます。

ユニバーサルスポーツ、レクリエーション活動を推進する中で、身近なスポーツとしてボッチャの常設コートを増やすことから各地区の分館スポーツ大会や総合体育大会等の競技種目として普及・促進、定着を図ります。また、「ボッチャのまち・東御」としてブランド化を図ります。

## ②障がいの有無や地域の内外を問わずに多様な交流ができるスポーツイベント等の開催

障がいのある方もない方も共にスポーツを「する」機会を提供することで、参加者の皆が達成感、一体感を得ることができ、誰もが身近に運動・スポーツに親しめるユニバーサルな地域の実現に向けて取り組みます。

## ③市民の障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツとの触れ合い

パラスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことで、「障がいの有無に関係なく参加者が達成感、一体感を得ることができる」機会として、パラアスリートの招聘や障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツに触れる機会を設けます。

併せて、小・中学生期から障がい者とスポーツ（障がい者スポーツ・ユニバーサルスポーツ）を通して触れ合う機会を設けることで、障がいについての理解、ユニバーサルな地域社会づくりへの理解を進めるとともに、将来の指導者、ボランティア活動への接続を図ります。

また、障がい者に配慮した施設のバリアフリー化に努めることはもとより、心のバリアフリー化、情報のバリアフリー化にも努めます。



東御市チームでユニバーサルリレーへの参加



小学生による車いすバスケット体験



ボッチャ交流大会



### 3 スポーツによる地域経済の活性化 【外から誘う】

本市の強みである湯の丸高原高地トレーニング施設を起爆剤として、官民が一体となり、スポーツ合宿の誘致、観光と連動したスポーツツーリズムを推進することで、知名度の向上や交流人口の拡大による地域経済の活性化を図ります。

#### <現状と課題>

##### (1) スポーツ合宿・イベントの受入れ体制

平成30年度（2018年度）から湯の丸高原スポーツ交流施設において、実業団、大学の陸上中長距離を中心とした高地トレーニング合宿の受入れを開始しましたが、関係する団体等の一元的な連携体制が整っていません。今後、市内外の専門機関をはじめとした関係団体との連携を一層強化し、知恵を出し合い本気で地域経済の活性化につなげていくための体制づくりが課題です。

##### (2) 更なる魅力創出と集客力の向上

地域の魅力を最大限に活かし、スポーツによる継続的な地域経済の活性化を図るため、湯の丸高原の合宿を機軸としたスポーツツーリズムの推進と積極的なプロモーションによる、市内全域への集客効果の波及、スポーツによる新たなビジネスの創出等が求められます。

## 3-1 スポーツツーリズムの推進

### ①地域スポーツコミッションの設立

スポーツ団体、企業（スポーツ産業、観光産業）、市等が一体となり、スポーツを観光資源とした新たなイベントの開催、スポーツ合宿誘致等のスポーツツーリズムに取り組むため、そのマネジメント機能を果たす「地域スポーツコミッション」を設立し、スポーツ振興はもとよりスポーツを核とした地域経済の活性化に取り組めます。

#### ※ 地域スポーツコミッション（仮称）

（一社）信州とうみ観光協会、民間宿泊業者、企業、しんたい、旅行業者、体育協会、東御市水泳協会、東御市陸上競技協会、総合型地域スポーツクラブ（設置予定）、市等の連携により運営を予定しています。

### ②湯の丸高原スポーツ交流施設等でのイベント開催や合宿受入

高地トレーニングの適地である標高1,750mに位置する湯の丸高原スポーツ交流施設へのスポーツ合宿誘致を積極的に行います。特に、陸上中長距離、水泳の施設を活かして実業団・大学等のトップレベルのチーム・選手を中心に合宿の誘致を積極的に進めます。

また、地域スポーツコミッションが、スポーツイベントの開催等魅力的なスポーツツーリズムを主導し、交流人口の拡大、知名度向上、集客増加等、地域経済活性化の好循環を創出します。

### ③東御市ならではのスポーツの魅力発信

山岳スポーツやウィンタースポーツをはじめ本市特有の魅力を発信するとともに、受け入れ環境を整え誘客を促進し地域の活性化を図ります。

#### ④ホストタウン事業の推進

モルドバ共和国のホストタウンとして、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会出場選手の事前合宿をサポートし、「する」「みる」「ささえる」スポーツの実践を図るとともに、スポーツと国際交流の融合から本市の魅力を広く発信します。

### 3-2 スポーツを活かした地域の活性化

#### ①産官学等の連携による湯の丸高原での高地トレーニング及びツーリズムの知見蓄積

湯の丸高原の高地トレーニングのポテンシャルを最大限に活かすため、専門機関と連携して、高地トレーニングの効果、スポーツツーリズムによる経済波及効果等の検証、分析を行います。

#### ②専門機関等とのサポート連携協定の推進

企業、専門機関等との連携を組織的に推進するため、連携協定の締結を検討します。

例えば、企業、大学等は湯の丸高原を実習・研究施設として活用し、その際、市の関係団体等が活動に参画して人材の育成を図る等、win-winの関係を構築することで、継続的な協力関係を強化します。

#### ③スポーツを活かした起業を支援する環境整備

スポーツを活かした起業を支援するための環境整備を検討します。例えば、商店街空き店舗を活用し、若者が集うインキュベーションスペースを設置すること等が考えられます。

※インキュベーションスペースとは…起業や創業をするために活動する入居者を支援する施設で、地方自治体や公的機関が運営していることが多く、安価な家賃で入居できることが多いものです。

#### ④スポーツ医科学研究（運動・栄養等）と連携したビジネスの創出

起業支援においては、スポーツ医科学・スポーツビジネス研究の専門機関、企業等と連携を図ります。例えば、運動・栄養分野の研究機関と連携した商品開発、スポーツビジネスの研究機関と連携した市場調査・販路開拓等が考えられます。



1泊2日でランニングセミナーを開催



ホストタウン相手国モルドバ共和国と市民交流事業に関する覚書を締結

## 4 競技スポーツ人口の拡大と競技力向上 【高みを目指す】

地元の選手が大きな舞台で活躍する姿は、観るものに感動と勇気を与えるばかりでなく、地域に元気とスポーツへの興味を生み出します。

将来、国内トップレベルとなる選手を本市から輩出するため、指導者の育成、学校部活動の体制整備を進め、競技スポーツ人口の拡大と競技力の向上に向けて取組みます。

### <現状と課題>

#### (1) スポーツ環境

- ①スポーツ少年団、スポーツ教室をはじめとし、少子化や市内で同種目のスポーツ団体が各地区に存在していることで団体そのものが小規模化しており、存続が困難となっています。
- ②中学期の学校運動部活動では、部員不足、教員の長時間労働等の問題から、興味のあるスポーツを身近でできないことが課題となっています。
- ③障がい児者の競技力向上を図るための環境整備が必要となっています。
- ④スポーツ関係団体、地域、学校、企業、教育委員会、市等が連携を図り、子どもたちのニーズを把握し、運営・指導スタッフの育成・確保、指導者レベルの向上、施設の提供等、充実した活動ができる体制を地域が一体となって整備することが急務となっています。

### 4-1 スポーツ愛好から競技志向への円滑な接続

#### ① トップレベルの競技スポーツの魅力に触れる機会の提供

障がいの有無にかかわらず、子どもたちがトップレベルの競技スポーツへの夢や憧れを抱き、競技に挑む意欲を喚起するため、体育協会、各種競技団体、企業等と連携しながらトップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、スポーツの魅力を積極的に発信するとともに市内におけるスポーツ環境の質的な充実を図り検討を行います。

また、本市への合宿誘致を通じて、トップレベルの選手・指導者を身近に見る機会から本市の選手、指導者のレベルアップを図ります。

#### ② 少年団・運動部活動等のレベルアップ支援

体育協会、各競技団体、総合型地域スポーツクラブ等の連携により、継続的な競技者育成に向けて、スポーツ教室及びスポーツ少年団の今後のある方を含む質的な充実に向けた取組みをします。

中学運動部活動顧問（外部指導者、部活動指導員含む）の資質向上のため、アスリート育成経験や専門知識を持った指導者による研修等への参加機会を確保します。また、日本スポーツ協会、長野県体育協会、長野県体育センター等が開催する講習会・競技指導等の研修会への参加及び指導者資格の取得を支援します。

## 4-2 高みを目指す人々への支援

### ①強化選手や一流指導者等への奨励・表彰制度の充実

全国大会に出場した個人・団体に対して奨励金の支給を継続するとともに、指導者等への表彰制度設立を検討します。

また、国内外で活躍する市民又は市出身選手を広く周知することで、スポーツ活動のより一層の発展を支援します。

### ②競技レベルに応じた練習環境に移行するための支援

競技志向の高まりによるニーズに対応できる新しい地域スポーツ体制の創造は、競技スポーツ人口の拡大、競技力向上を図るうえで必要不可欠です。

特に、中学校運動部活動については、生徒のニーズに合った活動機会を提供するために、活動を地域に移行することも考えられることから、制度移行時に迅速な対応が可能となるよう体育協会、学校、地域、企業、教育委員会、市等が一体となり学校の枠を超え「誰もが」「希望する部活動」に参加できる「新たな地域スポーツ体制」の検証を進めます。

### ③高地トレーニング環境整備と連動したトップアスリートや指導者等の招聘

湯の丸高原を国内屈指の高地トレーニングエリアとして整備し、積極的なプロモーションをすることで国内トップレベルの競技者・指導者を湯の丸高原に招聘し、交流機会の充実を図ります。

一流アスリートの技術力及び指導力を肌で感じることによって、市内における競技力・指導力の向上を促します。

### ④東御市、湯の丸高原へスポーツ合宿に訪れた選手やチームへの応援

合宿・イベント等で本市、湯の丸高原を訪れた選手、チームとの交流を通じ、地域で選手・チームを支える体制の構築を図ります。

「みる」「ささえる」スポーツの充実に加え、地域の誇りや結束を醸成する機会とします。

